

# シリーズ 中学校武道

## 授業の充実に向けて 76

### 外部指導員の活用例 弓道

福岡県大牟田市立延命中学校 講師 福田 雅哉

大牟田市は、福岡県の最南端に位置し、人口12万人ほどの中規模都市である。かつては日本最大規模の三池炭鉱を有し、「石炭の街・大牟田」として栄えたが、平成9年に市内外にあった炭鉱がすべて閉山した。現在、石炭関連の近代化遺産群が「世界遺産候補暫定一覧」に掲載され、国内外から注目されている。本校は、弓道がもつ武道としての教育的意義を重視し、近隣にあった弓道場を活用して、平成11年度から中学校選択体育の学習として、地域指導員との連携を図った「弓道」を取り上げてきた。

現在の生徒数は174名、6学級の学校である。校訓を「向学」「友愛」とし、学校の教育目標を「向学と友愛の精神を持ち続け、自己実現を目指す生徒の育成」としている。生徒は明るく素直で、積極的に運動部で汗を流している生徒や文化系に所属している生徒が多い。

大牟田市弓道連盟の外部指導員を招いて行う、保健体育科教員2名との授業の取組を紹介したい。



弓道場での授業

#### 1 外部指導員活用にした経緯

大牟田市では、平成24年度の武道必修化に伴い、ほとんどの学校が柔道や剣道を選択した。そのようなか、本校では市教育委員会を要請で、大牟田市弓道連盟の方々に外部指導員として招き、弓道に取組むこととなった。

選択授業が始まった平成11年、当時の校長が武道に造詣が深く、選択授業に弓道を取り入れることが教育効果を期待できるとして、実施に踏み切ったことがきっかけ

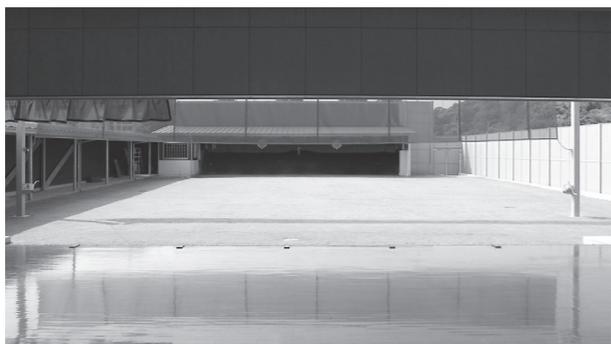
#### 2 用具、場所など

平成11年から行われていた弓道の授業では、その当時、用具はあまりなかった。そこで、学校の備品費やPTA会費から毎年購入していき、弓(6kg) 15張、矢45本、<sup>※</sup>15具を学校で用意し、弓道連盟からゴム弓15本や足りない道具などを借りて授業を行っていた。

た。弓は飛び道具であり、一般に危険性があるとされているのに、なぜ弓道なのかと安全性を問う意見が出た。しかし、弓道のもつ特性(礼・感謝・体と心のバランス等)や、安全重視の指導法等を理解してもらうにつれて好評を得ることができた。こうした協議を進めていく過程で不安なども解消されていった。

私は本校に着任して4年目を迎えた。大学ではさまざまなスポーツを学習してきたが、弓道に携わった経験が一度もなかった。1年目の授業では主に外部指導員の方が指導されていたが、私自身が弓道について何も知識がなかったのので、生徒に的確な指導をすることができなかつた。そこで、大牟田市弓道連盟の弓道教室に通うことにした。弓道教室では、弓道の特性、射位についてなど、さまざまなことを学ぶことができた。

平成23年には、福岡県の学校指導者講習会に参加し、初段を取得した。弓道教室や講習会に参加したことで、的確な技術指導ができる自信に繋げることができた。



授業の後半で活動場所となる延命中学校弓道場

平成25年度 武道「弓道」指導計画 学年1年 ★クラス単位で実施 平成25年1月9日～2月6日

時	日時	ねらい	主な学習内容・活動	場所	T2の人数
1	1月9日(木) 3限目	・弓道の歴史について学ぶ ・弓道とはどのようなものなのか、射を見て学ぶ	・弓道の時間の流れ(説明) ・模範実技(約20分) ・弓道場の使い方、説明	弓道場 (2クラス合同)	2名
2	1月10日(金) 4限目	・伝統的な礼儀作法を重んじ、日本古来の文化に触れ、弓道の歴史とその特性を学ぶ ・安全に留意して練習に取り組む重要性を知る	・DVD視聴(弓道の歴史) ・基本体の必要性(プリント配布、説明) ・礼記一射義、射法訓について ・道具の説明、安全面について ・立礼、座礼、座り方、立ち方について(プリント配布後、説明)	延命中 (2クラス合同)	2名
3	1月14日(火) 3・4限目	・礼儀作法について学ぶ ・射法八節がゴムやゴム弓のできる ・ゴム弓の使い方を知り、射法八節の流れを覚える	・射法八節(プリントを配布して説明) ・ゴムを使い、射法八節 ・ゴム弓での練習(時間があれば弓を使う) ・自己評価	延命中 (体育館)	1名
4	1月17日(金) 5・6限目	・弓道について理解を深める ・下掛け、髯の着けかたを覚え、弓の素引きをきちんとおこなうことができる	・ゴム弓での射法八節 ・下掛け、髯の着けかた ・下掛け、髯を着けた状態で弓の素引き ・自己評価	延命中 (体育館)	2名
5	1月20日(月) 5・6限目	・前時を振り返り、下掛け、髯を着けることができる ・手の内の作り方、取懸けの動作を覚える ・安全に気をつけ、新しいことへの取り組みができる	・下掛け、髯を着ける ・弓の素引き(細かな部分に注意しながら行う) ・手の内の作り方、取懸け練習(DVD) ・自己評価	延命中 (体育館)	2名
6	1月21日(火) 3・4限目	・素引きによる射法八節の一連の動作ができる ・安全に気を配り、新しいことへの取り組みができる	・下掛け、髯を着ける ・手の内の作り方、取掛けの復習(DVD) ・矢番え動作(DVD) ・弓の素引き ・自己評価	延命中 (体育館)	3名
7	1月24日(金) 5・6限目	・弓の素引きによる射法八節の一連の動作ができる ・矢の取り扱いに十分に気をつけながら、矢番え動作を行う	・下掛け、髯を着ける ・弓の素引き(手の内、取掛けの復習) ※矢を持ち打起こしまで行う ・的を射る(ある程度の距離をとる) ・自己評価	延命中 (体育館)	4名
8	1月27日(月) 5・6限目	・正しく射法八節の動作ができる ・周囲に気をつけながら、正しい動作で矢を射ることができる ・仲間の動作を見て、良い点や悪い点を指摘し合い、自分の射に活かすことができる(見取り稽古)	・下掛け、髯を着ける ・弓の素引き(手の内、取掛け、矢番え動作を注意し、動作を行う) ・的を射る(ある程度の距離をとる) ・自己評価	延命中 (体育館)	4名
9	1月31日(金) 5・6限目	・今までの学習を思いだし、試験に臨むことができる	・下掛け、髯を着ける ・弓の素引き ・実技試験 ・自己評価	延命中 (体育館)	3名
10	2月3日(月) 5・6限目	・弓道場でのマナーを守り、弓道場でできる喜びを感じながら、矢を射ることができる ・仲間の射法八節の動作を見て学ぶ(見取り稽古)	・弓の素引き ・的を射る(ある程度の距離をとる) ・的を射ていない生徒は正座をし、前の人の動きを見る(見取り稽古) ・自己評価	弓道場	4名
11	2月4日(火) 3・4限目	・弓道場でのマナーを守り、弓道場でできる喜びを感じながら、矢を射ることができる ・仲間の射法八節の動作を見て学ぶ(見取り稽古)	・下掛け、髯を着ける ・的を射る(ある程度の距離をとる) ・的を射ていない生徒は正座をし、前の人の動きを見る(見取り稽古) ・自己評価	弓道場	4名
12	2月6日(木) 5・6限目	・今まで学んだ技能を活かすことができる ・学んだ弓道の理論をもとに、自己評価を行うことができる	・下掛け、髯を着ける ・的を射る(ある程度の距離をとる) ・的を射ていない生徒は正座をし、前の人の動きを見る(見取り稽古) 本単元のまとめ ・自己評価	弓道場	4名



体育館での授業

下掛けは、衛生面等を考慮し、各自で準備させたものを使用した。武道必修化に伴い、全日本弓道連盟から大牟田市教育委員会を通して、弓20張、髯40具、下掛け100枚、矢100本、胸当て20枚、ゴム弓20本、シリーズ日本の武道『少年弓道』10冊の弓具等が寄贈された。こうして全員に弓具が行きわたった同時練習が可能になり、効果的な授業が行えるようになった。他にも畳15枚と視聴覚教材を準備している。

活動場所については、1年生は全12時間のうち、1～8時間を本

校の体育館で行い、9～12時間を延命中弓道場で行っている。2年生では、弓道場で行う時間を1年生より多くとり、4～5時間行っている。生徒たちは片道10分弱のところにある弓道場までランニングで行き、射場、矢道、安土等が揃った弓道場で貴重な時間を過ごしている。

### 3 教員の役割と外部指導員の役割

平成23年度までは外部指導員がT1として授業を進め、保健体育科教員は補助的な指導を行ってきた。しかし、講習等に参加し、教員側が弓道を学習していくことにより、弓道に対する知識や技術指導力も向上してきた。

平成24年度からは保健体育科教員がT1、T2として務め、T3という形で外部指導員が補助的なサポート役として授業を進めている。礼法を学んだり、ゴム弓・素引き等の矢を使わなかったりする稽古の時間は1、2人の外部指導

員に来ていただいている。実際に矢を持ち、的に向かって射る時間になると、安全面のことを考え、4、5人の指導員に来ていただいで、弓道の授業は、保健体育科教員を含めて6、7名体制で授業を行っている。

### 4 指導の概要

◎全体の指導計画(左ページ表)  
本校は1クラス平均約30名で、1年生2学級は3学期に12時間行っている。1年生を3学期、2年生を1学期にするねらいとして、1年生の学習を終えたあと、あまり時間を空けることなく2年生へのステップアップ学習に繋がられるからである。実際に2年生は、礼法や射法八節の動作を忘れてはいなかった。

外部指導員との打合せは、授業が始まる数カ月前に校長、教頭、保健体育科教員、外部指導員で指導計画をもとに「どのような流れ

で授業を進めていくか」「担当はどのようなしていくか」など細かく打合せを行っていく。授業が始まると次回の打合せは、授業が終わってから体育館や弓道場で5～10分程度行って次の学習に備えるようにしている。

◎指導上の注意点  
・具体的な方針を定め、教員と外部指導員が協力して事故の防止に努めることができる体制を整えておく。

・矢を持っていないくても、ゴム弓や弓を持つているときは、絶対にゴムや弦を引っぱったりしないよう指導した。

・体育館での授業はもちろん、弓道場でのマナー(座る時は必ず正座をする、他の人に矢を向けない、弓具をまたがれる置き方をしないなど)を徹底した。

・的に向かって矢を射る時は、指導者がいないときに、勝手に引いてはいけないことを徹底した。また、的を貼つてある畳の両サイドに1枚ずつ畳を置き、矢が壁に当たったときの跳ね返

大反響 たちまち 重版!

# 格闘技のおもちや箱

## 平直行の



夢枕 潤、快読!!  
『餓狼伝』×『範馬刃牙』  
板垣恵介、熱援!!  
〈板垣vs.平 特別対談30P収録〉

《本書に登場する格闘家達》  
東孝 ヤン・ロムルダ  
マンソン・ギブソン カーリー・グレイシー  
バトルホーク風間 前田日明  
ビクトル古賀 アンディ・フグ…他

●B6変判 ●308頁 ●定価：本体1800円＋税  
株式会社 福昌堂  
東京都世田谷区北烏山3-8-15  
TEL 03-3326-5039  
http://fukushodo.com/



跳ね返り防止のため、的を貼った量の両サイドにもう一枚ずつ畳を置いた

・間違って発射された場合に危険が及ぶため、射場、巻藁場以外では矢を番えないことを徹底し

●指導の実際  
紹介する指導例は、平成25年度の1年1組男子12名、女子14名の計26名、1年2組男子13名、女子13名の計26名で行った。

◆1時間目  
オリエンテーションで弓道の歴史などについて、学習プリントを使つての説明を行う。また、アンケートの結果から弓道という武道を見たことがないという生徒が大

◆2時間目  
①基本体の必要性、②礼記―射義、③射法訓、④呼吸の大切さについて、プリントを用いて外部指導者の方に説明してもらい、生徒たちは正しい知識を学ぶことができた。安全面については、矢を使

・毎時間、授業の最初では、女子の前髪のピン留めを使用しないようにさせ、ゴムでまとめさせる。また、本校のゼッケンはホックタイプなので、弓道の授業時だけは付けないようにしている。また前後左右の間隔を十分にとり、指導者の指示をよく聞くように指導している。

し、当たった音がすごかったです」などといった感想の音が聞けた。生徒たちは射場、矢道、安土等がそろつた弓道場に行くことにより身を引き締め、自然と気持ちを集ませることができ、また演舞を観賞することで、目と耳で楽しさを味わつた。

平成25年度 武道「弓道」指導計画 学年2年 ★クラス単位で実施 平成25年5月20日～6月24日

時	日時	ねらい	主な学習内容・活動	場所	T2の人数
1	5月20日(月) 2・3限目	・基本の動作を思いだしながら、礼儀作法を行うことができる	・1年生の時の授業を振り返る ・安全面の確認 ・礼儀作法(座り方、立ち方、立礼、座礼) ・弓の素引き	延命中 (体育館)	1名
2	5月21日(火) 5・6限目	・前年度、学んだことや技能を思いだし、下掛け、蹠のつけ方、弓の素引き、射法八節の細かな動作を確認しながらおこなうことができる	・下掛け、蹠を着ける ・弓の素引き(射法八節を確認する) ・安全に気をつけながら、矢を射る(的を少し小さくする) ※矢を射ていない生徒は見取り稽古をする	延命中 (体育館)	4名
3	5月27日(月) 5・6限目	・安全に気を配り、新しいことへの取り組みができる ・一連の動作を正確に行うことができる	・下掛け、蹠を着ける ・一人一本ずつ矢を射る ・講師の先生による、矢を二本持った状態での模範実技 ・座射の本座から射位への進み方(DVD) ←時間があれば	延命中 (体育館)	4名
4	5月31日(金) 2・3限目	・一つ一つの動作を確認しながら、新しいことへの取り組みができる ・座射による射法八節の流れを理解し、課題に応じた練習ができる	・座射の本座から射位への進み方(DVD) ・座射の開き足(DVD) ※(始めは矢と弓を持たずにいき、途中から矢と弓を持って行う) ・座射の立ち方、矢番え動作、座り方(DVD) ※下掛け、蹠は着けない	延命中 (体育館)	4名
5	6月3日(月) 2・3限目	・安全に関することや注意事項を確認しながら、新しいことへの取り組みができる ・矢取りのきまり事を守ることができる	・座射の本座から射位への進み方(DVD) ←矢と弓を持つ ・矢と弓を持って座射の開き足(DVD) ・座射の立ち方、矢番え動作、座り方(DVD) ・安全な矢取りの方法(DVD) ・※下掛け、蹠は着けない	延命中 (体育館)	4名
6	6月7日(金) 2・3限目	・前時の学習を思いだし、座射による射法八節の流れを理解しながら、課題に応じた取り組みができる ・私語をせず、他の生徒の動作を見て、学ぶことができる(見取り稽古)	・下掛け、蹠を着ける ・座射の本座から射位への進み方～座射の立ち方、矢番え動作、座り方まで、一連の動作で1回行う ・一人一回、矢を射る(2本の矢で行う) ・的を射ていない生徒は正座をし、前の人の動きを見る(見取り稽古)	延命中 (体育館)	5名
7	6月10日(月) 1・2限目	・前時の学習を思いだし、座射による射法八節の流れを理解しながら、課題に応じた取り組みができる ・私語をせず、他の生徒の動作を見て、学ぶことができる(見取り稽古)	・下掛け、蹠を着ける ・弓の素引き(手の内、取掛けの復習) ※矢を持ち打起こしまで行う ・的を射る(ある程度の距離をとる) ・自己評価	延命中 (体育館)	5名
8	6月11日(火) 5・6限目	・試験に向けて一連の動作を確認しながら、授業に取り組むことができる ・私語をせず、他の生徒の動作を見て、学ぶことができる(見取り稽古)	・下掛け、蹠を着ける ・座射の本座から射位への進み方～座射の立ち方、矢番え動作、座り方まで、一連の動作で行う ・一人一回、矢を射る(2本の矢で行う) ・的を射ていない生徒は正座をし、前の人の動きを見る(見取り稽古)	延命中 (体育館)	5名
9	6月14日(金) 3・4限目	・今までの学習を思いだし、試験に臨むことができる	・座射の本座から射位への進み方～座射の立ち方、矢番え動作、座り方まで、一連の動作で行い、的に向かって矢を2本射る	延命中 (体育館)	5名
10	6月17日(月) 2・3限目	・習得した射法八節を活かし、充実した納射ができる ・安全に気を配り、公正な態度で授業に参加することができる	・矢を2本持ち、的を射る(ある程度の距離をとって、矢を射る)的を小さくし、距離のばす(10m) ・的を射ていない生徒は正座をし、前の人の動きを見る(見取り稽古)	弓道場	4名
11	6月21日(金) 2・3限目	・習得した射法八節を活かし、充実した納射ができる ・安全に気を配り、公正な態度で授業に参加することができる	・矢を2本持ち、的を射る(ある程度の距離をとって、矢を射る)的を小さくし、距離のばす(15～20m) ・的を射ていない生徒は正座をし、前の人の動きを見る(見取り稽古)	弓道場	4名
12	6月24日(月) 2・3限目	・習得した射法八節を活かし、充実した納射ができる ・安全に気を配り、公正な態度で授業に参加することができる	・矢を2本持ち、的を射る(ある程度の距離をとって、矢を射る)的を小さくし、距離のばす(28m?) ・的を射ていない生徒は正座をし、前の人の動きを見る(見取り稽古) ・本単元のまとめ ・自己評価	弓道場	4名

弓道の学習を終え、みなさんが、どのような気持ちや考えで学習に取り組めたかを知るためのアンケートです。今後の学習指導に生かしていきますので、正直に、丁寧に教えてください。

	それぞれの番号の意味は、右の通りです。最も近いと思うところに○を付けてください。	はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ
		できる	だいたいできる	あまりできない	できない
1	弓道の授業は楽しかったですか。これからも、機会があれば、弓道をしたかったですか。	13人	5人	0	0
2	安全に気をつけながら、学習を進めることができましたか。	10人	8人	0	0
3	友達と協力し合って、学習の準備や後片付けなどに取り組むことができましたか。	12人	6人	0	0
4	矢束の取り方や矢番えなどの仕方を知ることができましたか。	13人	5人	0	0
5	弓道の一連の動きである「射法八節」を知ることができましたか。	7人	9人	2人	0
6	自分がどうすれば、もっと上手に矢を射ることができるとか、考えることができましたか。	7人	8人	3人	0
7	礼儀作法を身につけることができましたか。	4人	13人	1人	0
8	「射法八節」の一連の動きがスムーズにできるようになりましたか。	8人	6人	4人	0

- ・弓道をしていて、いろいろな大切なことを学んだ。私のいつもの生活とは大違い、落ち着いて行動するということが「弓道」を通して自然に身につけることができた。今まで本当に楽しかった。また、機会があったらしたいと思っている。
- ・的に当たった音が気持ち良かったです。
- ・実際の距離では当たらなかったけど、とても楽しく授業ができました。

離れがでなかつたりしたという反省点から的までの距離を短くし、一つ一つの動作を丁寧にやっていくことを意識づけさせた。慣れてくると1時間で5、6本の矢を射ることができ、回数を重ねるごとに、生徒たちは的に当たる喜びや達成感を味わうことができていた。また、弓道に興味・関心を持つ生徒が多くなった。

毎時間の最後にはふり返り活動として、学習ノートを活用している。具体的には、学習のめあて、活動内容、自己評価、活動の感想をつけている。また自己評価は、①礼法はきちんとできたか(礼儀、あいさつ、履き物をそろえている)、②基本の姿勢や動作はできたか(姿勢、歩き方、座り方ができている)、③射法八節(矢を引くための手順)はしっかりとできたか、④清掃と安全を心がけて活動できたか(指導者の手順を守っている)の5項目を設定し、A～Dの4段階で行っている。

◎評価方法について  
全体計画に沿って、毎時間の授

のような危険性があるか理解しているが、矢を持っていなくても怪我をしようとする、またさせてしまうことを理解させ、弓道のマナー等についても指導した。

◆3時間目

立ち方、座り方、立礼、座礼、正座、揖などの基本を教えた。礼儀については弓道の時に限らず、日常生活においても重要であるということを生徒に伝えながら指導した。

授業の開始・終了時、下掛け・襪の着脱のとき、説明を受けるとき、仲間の行射を見学するときなどに主に指導をしている。

◆4～9時間目

射法八節の一連の動作について学んだ。射法八節は弓を引くための基本である。執弓の姿勢から正しくさせるため、指導者が手本を見せた。矢番えや取懸け・手の内の動作の細かなところの指導は視聴覚教材を活用し、拡大した映像を何度も確認させながら行うことで、生徒にとっては大変有効な



視聴覚教材を活用した指導

指導方法であると考えられる。また、生徒同士で号令をかけさせ、自分たちで学び合う場面を設けることで、さらに充実した学習活動ができる。

◆10～12時間目

弓道場での授業になる。保健体育科教員1人は先に弓道場に行き、もう1人は生徒の最後尾に付いて一緒に弓道場に向かう。これは、事故防止や安全面での指導のためである。生徒は体育館での授

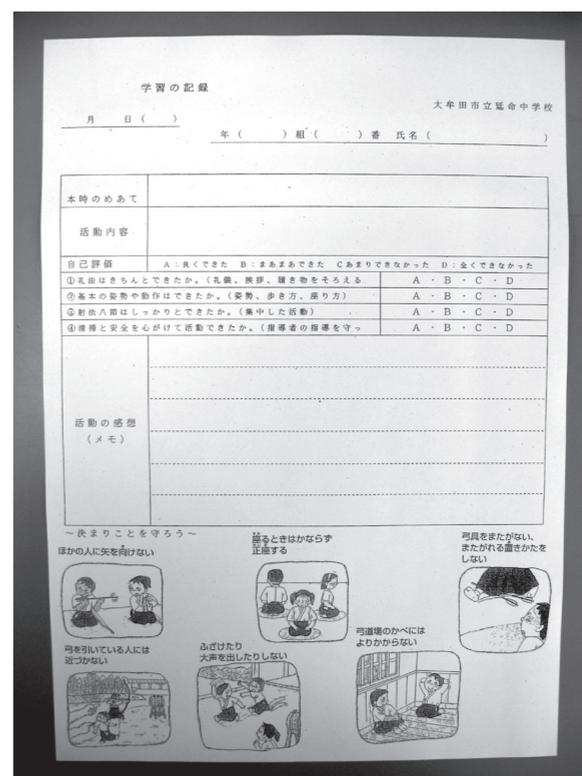
業とは違い弓道場に入ると、道場の持つ特有の空気を味わい、自然と気持ちを集中させているように感じた。

授業内容については、体育館で行った基本動作を活かせることを「めあて」とし、立射を行わせた。効率よく行うため、順番を待つ生徒は座って待たせるのではなく、執弓の姿勢で順番を待たせておくようにする。

6つの準備し、各的に5、6人ずつ並ばせる。安土まで28メ

ートルだと女子の弓(6kg)では届かなかったため、射位からのまを始めるは5～10メートルに設定した。距離を短くしたのはもう一つの理由がある。

的が遠くなると、生徒たちは「当てたい」という気持ちが強くなる。肩に力が入り片目を閉じて狙う生徒もいたりして、今まで学習してきたことが活かされなことがあった。中には安土まで届いた生徒も数名いたが、「会」の時、両肩に力が入りすぎたり、大きく



毎時間の最後には学習カードを活用している

<b>日本武道館発行 単行本一覽</b>		<b>なぎなたに夢を馳せて</b> 長濱 文子 著 四六判上製・354頁・2,400円+税	<b>柔道 その歴史と技法</b> 藤堂 良明 著 四六判上製・330頁・2,400円+税
<b>脳を活性化する</b> 有田 秀穂 著 A5判・346頁・1,600円+税	<b>弓道 その歴史と技法</b> 松尾 牧則 著 四六判上製・484頁・2,400円+税	<b>役に立つ少年柔道指導法</b> 向井 幹博 著 DVD付き・A5判・414頁・2,400円+税	<b>高め合う剣道</b> 佐藤 成明 著 四六判上製・564頁・2,400円+税
<b>平法 天真正伝香取神道流</b> 大竹 利典 著 四六判上製・296頁・2,400円+税	<b>女子柔道の歴史と課題</b> 山口 香 著 四六判上製・412頁・2,400円+税	<b>唐手から空手へ</b> 金城 裕 著 四六判上製・454頁・2,400円+税	<b>刀剣の歴史と思想</b> 酒井 利信 著 四六判上製・346頁・2,400円+税
<b>マンガ・武道のすすめ</b> 田代しんたろう 著 B5判・236頁・1,000円+税	<b>藩校・私塾の思想と教育</b> 沖田 行司 著 四六判上製・374頁・2,400円+税	<b>柔道の国際化</b> 村田 直樹 著 四六判上製・552頁・2,400円+税	<b>武道の礼法</b> 小笠原清忠 著 四六判上製・278頁・2,400円+税
<b>日本の元徳</b> 菅野 覚明 著 四六判上製・334頁・2,400円+税	<b>禪の思想と剣術</b> 佐藤錬太郎 著 四六判上製・386頁・2,400円+税	<b>武道における身体と心</b> 前林 清和 著 四六判上製・370頁・2,400円+税	<b>贈る言葉</b> なぎなた範士からのメッセージ 月刊「武道」編集部 編 四六判上製・366頁・2,400円+税
<b>柔道はすばらしい</b> 腹巻 宏一 著 四六判上製・310頁・2,400円+税	<b>今、なぜ武道か</b> 中村 民雄 著 四六判上製・370頁・2,400円+税	<b>日本の武道</b> 日本武道館 編 B5判上製・箱入・526頁・4,000円+税	<b>人を育てる剣道</b> 角 正武 著 四六判上製・268頁・2,400円+税
<b>日本の心—塩川正十郎対談集</b> 月刊「武道」編集部 編 四六判上製・346頁・1,800円+税	<b>武士道に学ぶ</b> 菅野 覚明 著 四六判上製・344頁・2,400円+税	<b>霊箭 阿波研造物語</b> 馬見塚昭久 著 四六判上製・320頁・2,400円+税	<b>大先輩に聞く</b> 田谷 将俊 著 四六判上製・376頁・2,000円+税
<b>武道 過去・現在・未来</b> 田中 守 著 四六判上製・274頁・2,400円+税	<b>私も武道経験者です</b> 吉野 喜信 著 四六判上製・326頁・2,000円+税	<b>剣の清流</b> 堀籠 敬藏 著 四六判上製・344頁・2,400円+税	<b>武道・スポーツの真髄</b> 辻 秀一 著 四六判上製・248頁・2,000円+税
<b>可能性の種子たち</b> 作山 吉永 著 四六判上製・338頁・2,000円+税	<b>兵法家伝書に学ぶ</b> 加藤 純一 著 四六判上製・344頁・2,400円+税	<b>私の歩んだなぎなたの道</b> 徳永千代子 著 四六判上製・252頁・2,400円+税	<b>弓道 その魅力</b> 岡村豊太郎 著 四六判上製・272頁・2,400円+税
<b>剣道で学び得たもの</b> 林 邦夫 著 四六判上製・298頁・2,400円+税	<b>我が空手人生</b> 金澤 弘和 著 四六判上製・372頁・2,400円+税	<b>武道伝書を読む</b> 湯浅 晃 著 四六判上製・348頁・2,400円+税	<b>武道</b> 子どもの心をはぐくむ 菅野 純 著 四六判上製・410頁・2,400円+税
<b>嘉納治五郎師範に学ぶ</b> 村田 直樹 著 四六判上製・292頁・2,400円+税	<b>日本の古武道</b> 横瀬 知行 著 B5判上製・箱入・462頁・5,000円+税	<b>武の素描</b> 大保木輝雄 著 四六判上製・220頁・2,000円+税	<b>剣の道 人の道</b> 岡村 忠典 著 四六判上製・350頁・2,400円+税

編集・発行 日本武道館  
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3  
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は  
日本武道館出版広報課  
までどうぞ！

TEL03(3216)5147  
FAX03(3216)5158

業の様子、学ぶときの態度、技術面など、保健体育科教員間で事前に評価基準を決めている。

全体での活動時（ゴム弓、弓の素引き）は、全体の様子を随時確認しながら見る事ができるが、各的についての個別指導時では、自分が指導している列の生徒しか見ることができなかった。

本校の体育館では6枚の的を準備して活動しているので、5名の外部指導員の方に来ていただいたり、もう1つの的を保健体育科教員で指導する体制をとった。そうすることによって、保健体育科教員が指導する列を、2人で日ごとに交代で見ることができるよう工夫した。

また、実技試験では生徒たちがある程度一人で引けるようになっていたため、外部指導員の方が危険だと判断した場合のみ補助をしていただき、教員は一人一人の行射を見て評価することができた。

学習ノートの評価については、毎時間、書かせることを基本としているが、そうしてしまうと運動活動時間が十分に確保できないこ

### 5 外部指導員活用の課題と対策

◎結果

・ 導入の講話など、生徒に的確な指導や話をしていただき、技能の向上が見られた。

・ 早い時期からの会議や、毎時間後に課題、反省を含めて授業の打合せを行い、進め方を確認することによってスムーズな授業展開ができた。

・ 保健体育科教員にとっても「どのように指導したらよいか」どの部分を注意し、修正していったら良いか」ということを外部指導員の方に相談することで疑問を解決し、的確な指導が生徒にできた。

### 6 今後の外部指導員の活用について

◎課題

・ 外部指導者と教員側との連携、授業の打合せを行うための時間を十分に確保すること。

・ 弓道場での授業になると移動に時間がかかったり、次の時間の準備があるので早めに授業を終わったりする必要が。そうすると活動時間が30分弱しか確保できないので、2コマ連続の授業を組めることが望ましいが、他の授業との兼ね合いから難しい。

・ 女性の外部指導員も数名いるが、生徒を男子・女子と分けてしまうと、効率よく授業ができないので、より細かな技術指導を行うために、男性外部指導員の方にも女子生徒の指導をお願いしている。しかし、それは学校や生徒の実態に応じて行う必要がある。

◎今後の活用について

平成26年度の3学期には1年生の授業を行うので、現在は指導計画を作成し、大牟田弓道連盟の方との打合せを行っている。早めの計画や打合せをすることにより、弓道連盟の方の人数調整をしていただき、余裕ある計画づくりができるからである。

本校は平成27年度に、近隣の他の2校と再編され、新しい学校になる。そのため、27年度の弓道の授業をどのように行っていくのか、授業計画は未定である。これから会議や話し合いを進めていく中で、たくさん課題や問題点等が出てくるだろう。

しかし、弓道は段階的に技術を習得していく過程で、苦手意識、辛抱、厳しき、学ぶ楽しさ、達成感等を体験しながら向上心を養っていく武道である。弓道という貴重な体験を通して、これまでたくさんの方を育ててきた。まだまだきた。運営上の問題等も出てくると思うが、外部指導員を活用し、武道に取り組み、弓道の素晴らしさを生徒たちに伝えていきたいと思う。